

1 年 巻末「かみしばい」

単元名 わたしのかみしばい(1年・1月) 教材名 ひろがる ことば(かみしばい)

○単元目標

- 自分のしたことの中から書くことを見つけ、簡単な構成の紙芝居にして伝えようとすることができる。
- 相手にわかりやすいように、文と文のつながりに気をつけて、まとまりのある文章を書くことができる。

○単元について

1年生も3学期になると、書きたいことを文章に書き表すことができるようになる。コラム「文をつくりましょう」での学習をとおして、主語や述語など文の成り立ちについても理解を深めている。しかし、書いた文章を見ると「そして」の多用による文の羅列も少なくない。ところで、冬休み明けの1年生は、話したいことや書きたいことをたくさんもっている。そこで、巻末の「ひろがる ことば」を活用して、紙芝居作りを取り入れた単元を展開しようと考えた。冬休みのできごとから一番伝えたいことを選び、「わたしのかみしばい」を作ることとおして、場面や文章の構成を意識した文章を楽しく書くことができる。

○学習指導計画

時	ね ら い	主 な 学 習 活 動	学習支援上の留意点
1	書きたいことを見つけること。	○冬休みのできごとを振り返り、友達に伝えたいことを決め、紙芝居作りの見通しをもつ。	○巻末付録をもとに、紙芝居作りへの意欲を高めながら、学習のめあてをとらえさせる。
2	書きたいことの簡単な構成を考えること。	○伝えたいことの構成を考え、紙芝居の場面の絵を描く。	○冬休みの絵日記カードなどを参考にさせ、書きたいことが決められるようにする。
3			○「はじめ」「なか」「おわり」を3枚の絵に表すとよいことを知らせ、構成を意識させる。 (絵は図工で描いてもよい。)
4	場面の展開を考えてまとまりのある文章を書くこと。	○絵をもとに経験を思い起こし、伝えたいことを書く。	○思い起こしたことをカードに書いて並べながら、文のつながりを意識して文章を書くことができるようにする。
5			
6	聞き手にわかりやすいように話すこと。	○場面の展開や話し方に気をつけて、紙芝居を楽しむ。	○紙芝居を読む声の大きさや話し方、場面のわかりやすさなど観点を提示して、相互評価や自己評価ができるようにする。
7			

○ 本時の展開

・ 目 標

したことの順序に気をつけて、紙芝居の場面の構成を考えながら、伝えたいことを、簡単な文に書くことができる。

・ 資 料

紙芝居を用意して、作る紙芝居のイメージがとらえやすいようにするとともに、巻末の付録をもとに紙芝居をすることへの意欲づけを図りたい。また、紙芝居の構成がとらえやすいように、「はじめ」「なか」「おわり」の3枚の画用紙を用意する。また、それぞれの場面の絵のラフスケッチと文章の大体を書くための「場面カード」(B 5 か A 4 の大きさ) を用意して活用するとよい。

○ 展開例

ね ら い	主 な 学 習 活 動	学習支援上の留意点
○ 学習のめあてをとらえる。	1 . 紙芝居を楽しみながら、学習のめあてをとらえる。 わたしの紙芝居の場面を考えて「場面カード」を書こう。	○ 「はじめ」「なか」「おわり」の3枚の紙芝居を演じて、本時の学習への動機づけを図る。 ○ 「場面カード」を用意して、それぞれの場面の内容を、つなかりに気をつけて考えることができるようにする。
○ 伝えることの構成を考える。	2 . したことに気をつけて1枚目の「場面カード」を書く。 ・ 「わたしが～したところ」 ・ 「いつ」「どこで」「だれと」 ・ 場面のラフスケッチ	○ 「はじめ」の場面であることを意識できるように、「いつ」「どこで」「だれと」「どんなこと」をしたのかがわかる場面の絵をイメージさせ、ラフスケッチとともに、文を書くようにするとよい。
○ 場面や文のつながりを考える。	3 . つなかりに気をつけて2枚目、3枚目の「場面カード」を書く。 ・ 伝えることの順番を決める。 ・ 「わたしが～したところ」 ・ 場面のラフスケッチ	○ 「つぎに」「それから」「けれども」「さいごに」などの接続詞を子どもから出させ、場面のつながりや紙芝居の構成を意識できるようにする。
○ 場面の構成を確かめる。	4 . 3枚の「場面カード」を並べて、紙芝居の構成を見直す。	○ 「場面カード」を並べて「はじめ」「なか」「おわり」になっているか吟味させる。場面の絵についても確かめさせる。

「たこあげ」という教師自作の３枚絵の紙芝居を見せた。子供は紙芝居を楽しみながらも３枚で終わってしまったことに「もう終わり？」という声もでたが、「あー、おもしろかった。」という歓声とともに拍手が沸き起こった。そこで、３枚の紙芝居を「はじめ」「なか」「おわり」の構成がとらえやすいように黒板に掲示して、紙芝居の場面をわかりやすいように３つにすることを知らせた。そして、「どんな場面にするか考えてみよう。」となげかけながら、「場面カード」を配り「わたしの紙芝居の場面を考えて『場面カード』を書こう。」という本時の学習のめあてを板書した。

授業終了5分前になってしまった。多くの子供たちは場面のラフスケッチに色鉛筆で色を塗っている。全員が「場面カード」の文を書いていることを確かめて、作業終了を告げる。「場面カード」を順に並べて紙芝居の構成を確かめさせた。

子供たちは、教師が用意した紙芝居を見ることで、「はじめ」「なか」「おわり」の場面構成について具体的に理解することができたようである。また、「場面カード」の活用は、子供たちの記述から、場面ごとの書く内容を明確にする支援となったことがうかがわれた。しかし、場面の構成や文のつながりよりもどんな絵を描こうかという意識が強く、「場面カード」の絵を先に描きたい子が多く見られた。場面の絵を先に描くという学習の流れも考えられよう。冬休みを題材としたことで、どの子も楽しく意欲的に取り組む姿が見られた。

ばめんカード「はつもうで」

☆だれが
どうしたところか

かえってきて、
みんなてめしく
ごちそうさたべい
るところ。

— いと —

「(3)」



◎人がつを大きく
◎なにをしてゐるところが
見てわかりやすい

- 3 -